



Album Title : Open Road  
Artist : Donovan  
Album : Open Road  
Label : Repertoire  
Number : REP 4880

## もうひとりのドノヴァン

あれは中学生の頃の事。友達から借りたドノヴァンのベストアルバムを、父からもらった折りたたみのレコードプレイヤーで聴いていたら、なんとプレーヤーがひっくり返ってギギーッとレコードに傷が入ってしまった。小心者の僕は友達に返しづらくなり、ひどいことに、毎日のようにそのアルバムを聴いていた。しかしそれが僕のドノヴァンに熱い気持ちを抱ききっかけとなった。

ドノヴァンといえば、今やアメリカのドノヴァン・フランケンレイターの方が知名度高くなってしまった。特に海のそばやサーフィンの世界ではね。しかし今回はスコットランドのドノヴァンのほうだ。彼は本名をドノヴァン・フィリップ・レイチというが、単にドノヴァンだけで通していた。ドノヴァンは65年のデビューから10曲以上のヒット曲を出し続けた。『カラーズ』、『キャッチ・ザ・ウィンド』、『サンシャイン・スーパーマン』、『アトランティス』、『メロー・イエロー』などなど、たくさんの曲がチャートインした。しかも彼は基本的にアルバムアーティストではない。ヒット曲はキャッチーでメロディアスだったが、アルバムではヒッピー過ぎたり、甘かったり、時々子供っぽかった。当時の彼のアルバム『ハーディー・ガーディ・マン』にはロバート・プラントがいないレッド・ツェッペリン、『バラバジャガル』にはジェフ・ベック・グループが参加している。またドノヴァンはボブ・ディランの映画『ドン・ルック・バック』にも出演している。ビートルズとも仲が良く、一緒にマハリシ・マヘーシュ・ヨーギーに会いにインドまで一緒に行っている。ドノヴァンは、つまり60年代のスーパースターだった。

このアルバム『オープン・ロード』は僕が傷つけたベストアルバムを出した後、1970年にリリースしたアルバムだ。このアルバムからシングルカットされた「リキ・ティキ・タビ」はシングルチャート55位、そしてこのアルバムはビルボード

トップ200の16位にまで上がった。

僕は彼のアルバムの中で、これが一番好きだ。メローで、キャッチーで、毎日聴き続けられる曲ばかりが納められている。エレキのギターがメインなのに、アコギの味がたっぷりだ。「リキ・ティキ・タビ」はラドヤード・キプリングの名作「ジャングル・ブック」のなかのショートストーリーで、蛇を殺すマンガースのキャラクターをベースにした歌だ。ドノヴァンはそのストーリーを少し変えて、蛇を殺すことをマンガースに任せるのではなく、自分で殺せ、つまり大人になったら、もうマンガースはいないんだから、自分で責任をとれとっている。このアルバムでドノヴァンは無責任なヒッピーの60年代は終わった、みんなが大人になることをテーマにしていた。

しかしこのアルバムから彼のヒットは次第に少なくなっていく。まるでメロディーセンスに逃げられたように、二度と前のクオリティーやレベルには上がれなかった。きっとレコード会社の問題と彼自身のバーンアウトじゃないかなと思う。やる気がなくなったんだろう。

最近このアルバムを聴いていると、ドノヴァン・フランケンレイターもそしてジャック・ジョンソンも、この人の音楽に影響されているのかもしれないと思う。ドノヴァンはアコースティックギターのメローなロックの元祖のようなテイストがあるからだ。ちまたでは最近ドノヴァン・フランケンレイターの名前をよく聞くから、逆にスコットランドのドノヴァンを思い出した。そして昨年、このアルバムを買ってからというもの、毎日のように聴いては心が和んでいるんだ。

最初の話に戻るが、傷つけたベストアルバムは結局、友達に返してくれといわれ、数ヵ月後に恐る恐る返した。しかしそんな僕の心情とは裏腹に、友達は傷のことは気にせず、笑って受け取ってくれた。僕はドノヴァンに深く触れられたことと、笑って許してくれた彼に、同時に感謝したよ。★

PROFILE ジョージ・カックル◎ 1956年鎌倉生まれ。日本人で日本舞踊の師匠の母とアメリカ人でヨットマンの父を持ち幼少時代を日本・テキサス・韓国で過ごす。小学3年生でビートルズに開眼。LAで有名なサーフポイントでの初サーフィン体験。この原体験が彼のその後の人生を決定付ける。日本での学生生活の後、憧れのインドをはじめ世界を放浪し、ハワイ経由でサンフランシスコに移り住み18年間波乗り明け暮れた。1995年帰国後、生まれ故郷鎌倉へ音楽マネージメント&制作会社を立ち上げ、日本のミュージックシーンにbabamaniaなどを輩出。音楽プロデューサー、コラムニスト、作詞家(マッドカプセルマーケット、阿川泰子など)として、2006年の8月には子供の英語・音楽教育用の本「ウクレレ・マミー・アンド・ミー」を出版。古今東西の音楽と文化と人間臭さをこよなく愛し日本と世界を結ぶ架け橋になりたいと願い、今日もポップ・マリーを聞きながらサーファーとしても多忙な日々を送っている。現在、インターFM(76.1)毎週日曜日、9:00~13:00 レイジーサンデーを担当。

SHONAN BEACH FM 78.9 STARLIGHT CRUISING Thursday 8-10pm